



日章学園九州国際高等学校校長便り 文月

建学の精神：道義に徹し、実利を図り、勤労を愛す

学園スローガン：やき抜く力

学校教育目標：国際的視野と人間性豊かな心を持ち、

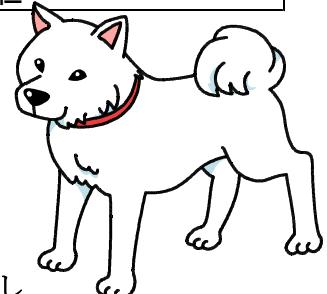
自ら学び考え、自己の課題を解決できる生徒を育成する。

令和3年(2021年)7月1日(木)校長 屋田伸仁



\コケコッコー/ \ワンワン/

## 鶏鳴狗盜



先日、新聞を読んでいたら、埼玉の小学6年生がカブトムシの生態を観察して発見したことがアメリカの学術誌に掲載されたという記事が目に止りました。夜行性のカブトムシは実は昼間も活動していることを2年間かけて観察し新発見したらしい。私もカブトムシが好きで、卵から成虫まで育てた経験がありますが、興味はそこで終わりました。それに比べ、その小学生の探究力とカブトムシ愛はすごいと脱帽しました。小学生が世界の科学界に一大貢献したのです。自分の興味あることや得意なことで、世の中に役立てないかと考えていたら、中国の故事「鶏鳴狗盜」(けいめいこう)を思い出しました。「史記・孟嘗君伝」に出てくる話です。国語の教科書にもときどき引用されます。興味深い内容なので、紹介します。

中国の戦国時代、齊の孟嘗君が秦の昭王に捕らえられた。そのとき、犬の鳴き真似をしてうまく泥棒する人物を使って、白狐の衣を盗ませて、昭王のお姫様に差し上げて、釈放された。その後、孟嘗君の一一行はすぐ逃げ出した。夜中に函谷関に着いたが、門が閉ざされていた。窮地に立った孟嘗君は、鶏の鳴き声のうまい名人を使って、鶏の鳴き声を真似させたら、番兵が朝になつたと思って門を開けた。孟嘗君はまんまと逃げ延びることができた。……という話です。

「鶏鳴狗盜」は、こそ泥や人欺しの喩えにも使われますが、肯定的に捉えて「つまらぬ芸や技能でも、何かの役に立つこともある。」「どんな人でも持ち味を生かしていれば、世の中のためになるし、どんな危機でも乗り越えられる。」という教訓の方を活かしたい。私自身、手品が趣味で、すでに40年以上続けています。今まで、いろんな場面で役立ててきました。おかげで「芸は身を助ける」経験がたくさんできました。ところで、「鶏鳴狗盜」の故事を活かした和歌が「百人一首」の中にはあります。清少納言の歌です。



## そらねはか 夜をこめて鳥の空音は謀るとも よに逢坂の関はゆるさじ



そらねはか

「函谷関は鳥の真似声でだまされても、私に『逢う』、逢坂の関はそうはいかないよ。」

ということを歌っています。また、この歌から中国の故事がすでに平安時代に伝わっていたこともわかり、日本の文化交流の歴史が垣間見えて、たいへん興味深いです。



## 手品と百人一首



さて、本年度は「総合的な探究の時間」の中で、「コミュニケーションマジック」と「五色百人一首」を取り入れた授業を開始しました。生徒のコミュニケーション能力を高め、人と人との楽しいコミュニケーションづくりに役立ててほしいのがねらいです。詳しい内容は裏面をご覧ください。

手品に関しては今後、アフターコロナを見据え、機会を捉えて、いろんな施設や学校をボランティア活動で慰問したいと考えています。

いつでも、お気軽にお声をかけてください。生徒達と一緒に喜んで出かけます。

